

【2026 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 理学療法学コース/理学療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等	
高次脳機能障害治療学	PSP33-012	選択	2	3	前期	
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー		
小沢 健一	C305	k-ozawa		火曜日 12:00~13:00		
授業の目的・概要	セラピストが臨床場面で関わる、中枢神経系疾患、精神疾患、認知症、発達障害などの多くは高次脳機能障害である。さまざまな高次脳機能障害の症状を理解し、「どのような場面に対して問題を起こすのか」「評価や治療はどうしていけばいいのか」など、その概要を学び、さまざまな高次脳機能障害の機序・症状の理解・評価・治療に必要な知識を身につけることを目的とする。講義終了後は確認テストを行い理解の定着をはかっていく。この講義は、同時双方向型授業等の遠隔授業で行っていく。					
授業形式・方法	<input type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习)	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> その他 (講義中に随時質疑応答し進める)	<input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク	<input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート	
学習上の助言	中枢神経系の理解、解剖学、生理学や神経心理学で学んだ知識が必要となる。中枢神経系の理解に自信がない学生は早めに質問に来ること。講義は教科書を中心に行うので予習復習は必ず行うこと。					
教科書	高次脳機能作業療法学 第2版 / 編：能登 真一 / 医学書院 / 2019					
参考書	高次脳機能障害学 第3版 / 著：石合純夫 / 医歯薬出版 / 2022					
外部教材	医学書院 Web 動画 高次脳機能障害					
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針		
①	神経ネットワークの概略を理解し、説明できる。			RH (2)		
②	CT、MRI 画像から高次脳機能障害を推測できる。			RH (2)、(3)		
③	各種、高次脳機能障害を理解して症状の特徴を説明できる。			RH (2)、(3)		
④	各種、高次脳機能障害に対して適切な評価や治療を選択できる。			RH (2)、(3)		
⑤	リハビリテーションを実施するために関連する制度や実際の活用法を説明できる。			RH (2)、(3)、(6)		
⑥						
授 業 計 画						
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)			
1	高次脳機能とその発達を学ぶ。	同時双方向型授業	事前に教科書 3-14p で予習すること。配布スライドにそって学び、授業後半で確認テストを行う。	4		
2	脳解剖と画像診断を学ぶ。	同時双方向型授業	事前に教科書 15-25p で予習すること。配布スライドにそって学び、授業後半で確認テストを行う。	4		
3	評価と治療の流れ、多職種連携の重要性を学ぶ。	同時双方向型授業	事前に教科書 26-43p で予習すること。配布スライドにそって学び、授業後半で確認テストを行う。	4		
4	注意障害を学ぶ。	同時双方向型授業	事前に教科書 47-55、174-183p で予習すること。配布スライドにそって学び、授業後半で確認テストを行う。	4		
5	記憶障害を学ぶ。	同時双方向型授業	事前に教科書 56-67、184-193p で予習すること。配布スライドにそって学び、授業後半で確認テストを行う。	4		
6	失語症を学ぶ。	同時双方向型授業	事前に教科書 68-80、194-203p で予習すること。配布スライドにそって学び、授業後半で確認テストを行う。	4		
7	失行症を学ぶ。	同時双方向型授業	事前に教科書 81-96、204-212p で予習すること。配布スライドにそって学び、授業後半で確認テストを行う。	4		

【2026 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 理学療法学コース/理学療法学科】

8	失認（対象認知の障害）を学ぶ。	同時双方向型授業	事前に教科書 97-111、213-222p で予習すること。配布スライドにそって学び、授業後半で確認テストを行う。	4
9	半側空間無視を学ぶ。	同時双方向型授業	事前に教科書 112-127、223-241p で予習すること。配布スライドにそって学び、授業後半で確認テストを行う。	4
10	遂行機能障害を学ぶ。	同時双方向型授業	事前に教科書 128-141、242-248p で予習すること。配布スライドにそって学び、授業後半で確認テストを行う。	4
11	社会的行動障害を学ぶ。	同時双方向型授業	事前に教科書 142-154、249-257p で予習すること。配布スライドにそって学び、授業後半で確認テストを行う。	4
12	認知症を学ぶ。	同時双方向型授業	事前に教科書 155-171、258-266p で予習すること。配布スライドにそって学び、授業後半で確認テストを行う。	4
13	高次脳機能障害と社会復帰支援を学ぶ。	同時双方向型授業	事前に教科書 269-305p で予習すること。配布スライドにそって学び、授業後半で確認テストを行う。	4
14	各種検査バッテリーの使い方を学ぶ。	同時双方向型授業	この講義で出てきた各種テストバッテリーを実際に行う。	4
15	各種検査バッテリーの結果から臨床思考過程を学ぶ。	同時双方向型授業	各自テストバッテリーの結果から考えられる生活障害を想定しておくこと。	4
試	定期試験 達成度評価・評価ポイントを参照			

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		90	0	0	0	10	100
総合力指標	知識・技術力	80	0	0	0	10	90
	思考・推論・創造する力	10	0	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	学期末の定期試験(筆記試験)を実施して評価する。(90%) 問題(回答)形式は、記述・穴埋め・選択式である。				試験は各自に返却し、解説する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						

【2026 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 理学療法学コース/理学療法学科】

成果発表	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
ポートフォリオ	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①	✓	毎回行う確認テストは、評価対象とする。(10%)	テストを終了後、課題返却により解説していく。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥			
備 考				
他 担 当 教 員	なし			
教員の実務経験	担当教員は作業療法士として 30 年以上の臨床経験がある。			
実践的授業の内容	臨床における最新情報とともに、その専門性を生かして学生に教授する。			
そ の 他	<p><b>双方向型授業</b>：Microsoft Teams を使用して行う。</p> <p>授業時には課題ダウンロードや動画視聴などがあるので、通信容量制限がある場合には通信量に十分注意すること。</p> <p>講義終了後、Microsoft Forms を使用し、確認テストを行う。</p>			